

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小鹿野町役場庁舎	階数	地上2階
建設地	埼玉県秩父郡小鹿野町	構造	木造
用途地域	都市計画区域内(区域区分非設定)	平均居住人員	150人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,376時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年6月17日
敷地面積	6,833 m ²	作成者	
建築面積	1,565 m ²	確認日	2021年6月18日
延床面積	2,404 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 67% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 49%

④上記+ 49%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3.0

Q3 室外環境(敷地内): 4.1

LR1 エネルギー: 4.6

LR2 資源・マテリアル: 3.0

LR3 敷地外環境: 4.1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>・町民の安心安全の拠点として、利用しやすく小鹿野町らしい庁舎。</p> <p>・組立柱や合わせ梁を採用し、地場産製材を活用して地域産業の活性化を目指すと共に、適材適所で集成材と製材を使い分けた合理的な木造設計をしている。</p> <p>・県道からのランドマークとなる建物配置と、建物の内部外部共に南北の軸をメインとした計画で、必要な機能と町</p>	
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>・外壁躯体間に240mmの断熱材を施し、アルミ樹脂複合断熱サッシの採用と合わせて、高い外皮性能を確保している。</p> <p>・議場は内装を木質仕上げで作り、議会利用と町民の</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>・建物内に南北を通り抜ける通路を設け、その通路に面して窓口カウンターを配置した、シンプルでわかりやすい来庁者動線と視認性を確保している。</p> <p>・執務室は全面OAフロアのワンルーム空間とし、将来の</p>
<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>・来庁者の建物主要出入口を南北2箇所に設け、周囲からのアクセスを容易にしている。また、思いやり駐車場を建物に近接した位置に設けている。</p> <p>・建物周囲に下屋を設け、既存観光案内所や町並みとス</p>	<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>・外壁、開口部、屋根、床下、ビットなどの断熱性能を高め、外皮の熱負荷を抑制している。</p> <p>・2階吹抜けにハイサイドライトを設け、自然光を取り入れている。</p> <p>・BEMSの採用で効率的な設備機器運用を可能にしてい</p>
<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>・自動水栓や節水型衛生機器を採用している。</p> <p>・ビニル床材や階段滑り止めなどのリサイクル材の使用や、OAフロアなどの再利用可能なユニットの使用をしている。</p> <p>・町産材木板を町民の目に留まりやすい外壁に使用し、地</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>・車寄せと車両の通り抜け動線を計画し、周辺道路の混雑回避に配慮している。</p> <p>・搬入動線を設け、来庁者の主要車両動線の混雑回避に配慮している。</p> <p>・適切な量の駐車場、思いやり駐車場、駐輪場スペース</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
小鹿野町役場庁舎

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.5
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.0
1 音環境						2.1	0.15	-	-	2.1
1.1 室内騒音レベル		各エリアに適した騒音レベル基準値を下回るように配慮する				1.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						2.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		建具遮音性能をT-2以上とする				3.0	0.63	-	-	
2 界壁遮音性能		界壁遮音性能をD45以上とする				1.0	0.37	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音		壁、床、天井に適宜吸音材を設ける				4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温		窓システムU3.0程度、外皮U1.0程度以下の外皮性能を確保する				2.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		ゾーン別に冷暖房制御が可能な空調システムとする				3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用						3.0	0.30	-	-	
1 昼光率						3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.28	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		建物全体で500lx以上1000lx未満の照度を確保する				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.27	-	-	
4 空気質環境						4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建築基準法規制対象外の建材をほぼ全面的に採用する				5.0	1.00	-	-	
4.2 換気						2.6	0.30	-	-	
1 換気量		換気量30m ³ /h人以上~35m ³ /h人以上未満とする				4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		敷地内禁煙とする				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.7
1 機能性						3.8	0.40	-	-	3.8
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.31	-	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.31	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.39	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		執務室天井高さを1階:3m、2階:2.8mとする				4.0	0.31	-	-	
2 リフレッシュスペース		執務室の1%以上のリフレッシュスペースと自動販売機を設ける				5.0	0.31	-	-	
3 内装計画		コンセプトに適した空間を設計し、パースや模型で検討している				5.0	0.39	-	-	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理が容易な建材選定、形状の工夫をしている				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		維持管理のための点検口や清掃用水栓を設けている				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.9	0.30	-	-	3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						4.6	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められる耐震性の1.5倍で設計している				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		建材の耐用年数に配慮し、建物の長寿命化を図っている				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		災害時の機能継続、重要度の高い系統の優先稼働に配慮している				4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		災害時の使用不能箇所分散を図り、通常時の節水にも配慮している				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		防災無線を地上階に設置している				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.5	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1階の階高4.1mで設計している	5.0	0.55	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.3未満となっている	4.0	0.45	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	構造部材を傷めずに修繕、更新できる	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物形状、外装材、外構計画の工夫でまちなみに適した計画をして	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		設計時の町民参加、町産材の使用など地域との関わりに配慮してい	4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		建物周囲に下屋を設け、開放的で立ち寄りやすい中間領域を設計	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.49	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		自然エネルギー直接利用量 = 686.80MJ/年㎡	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.23	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSを導入し性能評価を管理可能にする	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型の衛生機器を採用する	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		主な構造材、内外装仕上材に町産木材を使用する	2.0	0.11	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		再利用できるユニット部材を用いている	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対象物質を含有しない建材種別が8以上ある	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	4.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出量が50%程度	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用しない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔指標を0.5以上とする	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪、駐車スペースを確保している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	小鹿野町役場庁舎	BEE	2.5	BEEランク	★★★★
------	----------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
5.0	+	3.3	=	8.3	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	5.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	5.0
<配慮した内容を記述> LCCO2排出量を50%程度に抑制			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	4.0
<配慮した内容を記述> 既存植栽の保存と新たな緑化計画による外構計画			

: 入力欄